



Supasawad Chardchawarn

出身地：タイ

所属：Assistant Professor, Associate Dean for Academic Affairs,
Faculty of Political Science, Thammasat University

日本滞在：2009年11月～2010年3月

アジ研での研究テーマ：Local Governance in Thailand: The Study of
Intergovernmental Relations Before and After 2007

タイと日本 ― 日常生活の相違

スパサワード・チャードウチャワーン

確か一月ぐらい前だったと思う。編集の方からタイ・日本両国に関連し、学術的ではなく肩のこらない読みものを書いてほしいと頼まれた。私にとっても印象深く、かつ読者にも喜ばれそうなものを頼む、とのこと。何を書こうか決めるのに数日かかった。何を書いてよいか検討がつかない。日本の文化について何か書くとしても日本人たちがよく知っていることになってしまっただろう。かといってタイの文化だけとなると日本の読者が興味を持ってくれるかどうか確信がない。結局、タイと日本についてのちょっとした（私自身、大きな違いを感じたところの）比較を述べることにした。これはタイを訪れる機会のある人にとっては役に立つ知識、ガイドとなろう。またタイの人々をもっと理解する助けにもなると思う。

●タイ人と時間感覚

日常生活で日本人がもっとも重要と考えることのひとつに「時間を守る」ということがある。しかし日本のかたがタイにいてタイの人々を相手にすると注意が必要だ。来日前に、日本人は時間に几帳面だからよく気をつけたほうがよいと言われた。日本に来てみるとなるほどそうだ。日本の鉄道、バス（賛成なさらない方もおられると思うが）が時刻表通りに運行しているのは印象的、かつ驚異的であった。日本人と約束すると、たとえ数分たりとも遅れては来ない。タイの人はというと、事態は全く異なる。一般的にタイ人は時間についてあまり気にしないといえるのではないか。タイ人同士、指定の時間に三〇分ぐらい遅れても、問題なく受け入れられる。例えば約束の時間が午後五時だったとして

五時半に現れても、誰もとがめないだろう。でも三〇分以上遅刻したら何が起るのか？この場合は何らかの説明を加える必要がある。車が故障した、道路が渋滞した、おなか痛くなったなど。

鉄道のような交通公共機関も同じである。タイの鉄道サービスは時間どおりでないことで知られている。タイの電車は決して時刻表どおり走らない。長距離電車に乗って三〇分程度の遅れだったならまだ幸運である。私の経験では数年前、バンコクからチェンマイ行きの列車に乗ったときのこと、驚くなかれ、六時間も遅れたのだ。そのお陰でチェンマイでの約束は全部延期せざるをえなくなった。あのとき以来、私は鉄道を利用していない。だから読者の方々もタイで誰かに電車を使いなさいと言われても断るに如かずだ。

●タイの人と行列

もう一つみなさんにお話したいのが行列を作って待つということ。何を待つにしても列を作って待つという光景を目にすると必然、私は日本人を尊敬する気持ちになる。読者の皆さんは日本人だから不思議とは思わないかもしれない。しかし私にとっては、これは普通ではないのだ。日本人は、バスを待つとき、トイレに入るとき、レストランで席を待つとき列を作る。タイでは違つ。タイでバス待ちをしているとき人が前に来たか後に来たかは重要ではない。むしろバスに乗り込む能力に依存する。しかし最近では列を作る感覚が出てきている。若い世代はより気を遣う。若者が多く使うスカイトレインの駅では列を作っているのを見ることがで

きる。

●エスカレーターの乗り方

エスカレーターにどう乗るかも見ていて興味深い。数年前、初めて日本に来たとき、なぜ皆片側にしか立たないのかわからなかったが、じきに訳がわかった。片側を空けておき急いでいる人が上っていけるようにしているのだ。当時私は神戸に住んでおりみんなエスカレーターの右側に立っていた。東京に来る機会があったのだが、おおなんと！これが違つたのだ。今度はエスカレーターの左側に皆立っているではないか。そこで私はエスカレーターの乗り方に違いがあることを理解した。関西だと右に、関東だと左に立つのだ。タイではどうかというところが大違いだ。タイではそのような習慣はない。デパート、地下鉄、ホテル、スカイトレイン、どこであらうがエスカレーターのどこに立つかは自由だ。だれも気にはしない。どちらかに並ぶということはない。だから、急いでいて駆け上がりたくてもそれは無理というほかない。そんなことをすると失礼な人と思われるだろう。実際、タイと日本には他にもいろいろな違いがある。例えば、日本人は歩くことを好むが、タイ人はバスやタクシーの利用を好む。日本人は電車やバスでは黙っているがタイ人は携帯電話でおしゃべりするを楽しんでいる、等である。しかし、スペースの関係でこのくらいにしておこつ。

ところで、こう書いてきたからといって自分の国を悪くいうことがここの目的ではない。これらの例をみてもタイの人たちは一般的なおおらかで親しみやすい人たちだと思つ。タイの人は他の人が悪くてもたいがいは大目に見る。我々はひとが誤りを犯しても「マイペンライ」（だいじょうぶ）と言つのが常である。